

1. 評価報告概要表

作成日 平成 年 月 日

【評価実施概要】

事業所番号	1072200320
法人名	株式会社ヴィラージュ
事業所名	グループホーム上白井の家
所在地	浜川市上白井2578-11 (電話) 0279-20-2089

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年10月27日

【情報提供票より】(平成20年 10月 10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 5月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 6人, 非常勤 7人	常勤換算 7.2人

(2)建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 2,800円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 200,000	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 0 円

(4)利用者の概要(10月 10日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	1名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 85.6歳	最低	82歳	最高	91歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	こすもすクリニック ・ ほたか病院 ・ 船岡歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、利根川の右岸国道17号の近くにあつて、南側に畑地が広がる静かな環境の中で、入居者一人ひとりの思いを尊重し、ペースを大切にした支援に取り組んでいる。天気の良い日の散歩や玄関先のベンチで日光浴、年間行事計画を立て普段行けない場所へのドライブ、系列グループホーム間の食事会、隣接した小規模多機能施設利用者との交流、入居者の笑顔が見られない時にはストレス解消のため外出を促す等出来るだけ外へ出る機会を持ち、入居者が安心して楽しく日々の生活が送れるよう支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価に関する資料を全職員に配布し、処遇会議で意義等について検討している。前回評価の主な改善課題は、地域密着型サービスとしての理念の見直し、評価の意義の理解と活用、運営に関する家族等意見の反映、職員の異動等による影響への配慮等であるが、改善に当たって「改善シート」を作成し、処遇会議で話し合いその改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、職員を3グループに分けグループ毎に検討し、それらをグループの代表が持ち寄りまとめている。自己評価の改善として、家族が面会に来られない重度の入居者の居室に外出行事等の写真を飾る等居室作りを行っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を隔月に開催し、近況報告・利用状況・行事計画・外部評価の結果や改善状況等を報告し、意見交換を行っている。運営推進会議の地元委員を通じ、地域の人達に対して認知症事業所の理解が深まり事業所運営がスムーズとなっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>状況等の変化や急を要する場合には電話でその都度報告しているが、入居者の健康状態や日々の生活状況等は、面会に来る家族にはその際に報告し、遠隔地で面会に来られない家族には今年度1回「お便り」として報告している。今後、面会に来られない家族に対して入居者の状況を定期的に報告されるよう期待する。</p>
重	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、地域の「ふれあい祭り」や道路清掃・清掃活動に参加している。地域婦人会の人達が踊りを披露してくれたり、専門学校が話し相手に訪問したり、地元小学校の体験学習を受け入れお礼の便りが届く等地域の人々との交流に努めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を処遇会議で話し合い、理念の見直しを行い、「笑顔を忘れずに、家庭的な環境の下で、自分らしい生活を住み慣れた地域の中で送れるよう支援する」という地域密着型サービスとしての理念を作り上げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事務室と廊下に掲示し、毎朝の申し送りで唱和し、笑顔を絶やさず、声かけを優しく接し、散歩の時には地域の人達と挨拶を交わすなど理念を念頭に置いた日々の支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の「ふれあい祭り」や道路清掃・清掃活動に参加している。地域婦人会の人達が踊りを披露してくれたり、専門学校が学生が話し相手に訪問したり、地元小学校の体験学習を受け入れお礼の便りが届く等地域の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価に関する資料を全職員に配布し、処遇会議で意義等について検討している。前回評価の改善課題は「改善シート」を作成し、職員と共に改善に取り組んでいる。自己評価は、職員を3グループに分けグループ毎に検討し、グループの代表が持ち寄りまとめている。自己評価の改善として、家族が面会に来られない重度の入居者の居室に外出行事等の写真を飾る等居室作りを行っている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を隔月に開催し、近況報告・利用状況・行事計画・外部評価の結果や改善状況等を報告し意見交換を行っている。運営推進会議の地元委員を通じ、地域の人達に対して認知症事業所の理解が深まり、円滑な事業所運営が推進されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	各種更新書類の提出や運営推進会議の案内は持参し、その際に制度改正等の各種情報を入手したり、疑問点等を質問し、サービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	状況等の変化や急を要する場合には電話でその都度報告しているが、入居者の健康状態や日々の生活状況等は、面会に来る家族にはその際に報告し、遠隔地で面会に来られない家族には今年度1回「お便り」として報告している。金銭管理は立替金処理し、毎月の利用料請求時に明細書・領収書を同封し、精算処理している。	○	家族の安心を確保し、事業所との信頼や協力関係を築くために、面会に来られない家族に対して入居者の状況を定期的に報告されるよう期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する意見等は苦情簿を備え、家族の面会時に意見や苦情を聞き記録し、処遇会議で再発防止に努める体制を整えている。介護サービスに関する要望は、「介護サービス日課記録表」や申し送りノートに記録し、介護計画に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は極力抑え、新入職員には教育担当職員を指名し、2週間にわたり同じ勤務時間を割り振り、教育担当者からの指導を受け、入居者へのダメージを防ぐよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市主催の研修会に管理者が参加すると共に、法人の年間研修計画に基づき、新人研修、接遇研修、認知症・褥瘡対策・個人情報保護等の研修に夜勤者を除き殆どの職員が参加している。また、日々の介護の在り方等については、申し送りやケアカンファレンスの席上で看護職員とケアマネジャーの指導を受けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、「小規模多機能ホーム・グループホーム大会」と「認知症に関する全国フォーラム」に管理者が参加している。また、系列法人内のグループホーム3施設との交流を図っているが、法人外のグループホームとの職員相互派遣研修等には参加していない。	○	系列法人外のグループホームと交流する機会を持ち、職員相互派遣研修等の活動を通じ、サービスの質の向上を図るよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用する前に本人や家族が見学し、入居者とお茶を飲み食事を共にする等事業所の雰囲気に馴染むよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と本の貸し借りをしたり、日常の会話のなかから七夕飾りの作り方など風習を教わったり、昔話を聞いたり、調理の味見をしてもらう等、共に支え合う関係作りに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の気持ちに配慮し食事の席の配置をしたり、一人で食事をしたい入居者には一人で過ごせるよう支援したりしている。意思表示の出来ない入居者の言動や表情、小さなサインを見落とさないよう注意し、対応するよう心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の状況を記録したモニタリング表と本人や家族の要望等を記録した「介護サービス日課記録表」を基に、毎週金曜日開催するカンファレンスで協議し、ケアマネジャーが介護計画を作成している。面会時に家族や本人に説明し意見を聞き、面会に来られない家族には介護計画書とモニタリング表を送り電話で説明し署名・捺印を頂いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に定期見直しを行い、実施した計画内容はどのような効果がみられたか等を考察、分析し、入居者の現状にあった介護計画を作成している。計画期間内であっても退院や心身の変化等に対応し、必要の都度見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期利用共同生活介助の指定を受け、ショートステイ利用者の要望に応えられるよう体制を整備している。また、隣接する小規模多機能居宅事業所との日常的な交流を行っている。かかりつけ医の受診は家族対応であるが、協力医の受診は職員が対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時にかかりつけ医の希望を聞き、受診できるよう支援している。受診には介護日誌を持参し、家族が対応の場合には受診結果の報告を受けている。また、ホームの協力医は2週間毎に往診し、入居者の体調変化等に対して適切な指導をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族や協力医と話し合い、点滴等の医療行為が必要となり事業所での日常生活が困難となった終末期には、入院等の対応をとることとして家族の理解を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員を対象とした年間研修計画で、個人情報保護に関する研修や言葉使い等の接遇研修を、前期と後期の2回開催している。また、日常業務の中で、排泄介助等において入居者の誇りやプライバシーを損ねないように指導している。名前のある記録物などは、事務所内の棚に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日2回のバイタル測定の時に、ゲームや散歩、隣接する小規模多機能居宅介護事業所でのカラオケ等、その日にやりたいことなどを聴き、入居者一人ひとりの意思を尊重し支援している。また、意思表示の困難な入居者には声かけをし、うなずく等の小さなサインを見落とさないよう注意している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士の献立表を参考に、前日勤務の職員が入居者の希望を取り入れ翌日分の献立表と食材を用意している。出来る入居者には下膳や味見を頼み、昼食は職員と一緒に食事をしている。時には、系列の3グループホームを定期的に入居者が巡回して昼食やおやつを共にし、交流を深めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、男性と女性を分け各々1日おきに入浴している。入浴を拒否する入居者には、「入浴チェック表」で4日目には入浴するよう誘導している。また、入浴剤を使用し、入浴を楽しく入れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食堂の掃除を職員と一緒に رفتり、おしぼりタタミやエプロン配り、下膳など可能な範囲での役割をお願いしている。隣接の小規模多機能居宅事業所利用者とカラオケを楽しんだり、玄関前のベンチで外気浴をしたり、紅葉狩り等の季節のドライブ等入居者の希望を取り入れて気晴らしを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日に散歩をしたり、玄関前のベンチで外気浴をしたり、年間行事計画を立て普段行けない場所へのドライブをしたり、系列グループホームの相互訪問をする等、出来るだけ外へ出るよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関出入り口の扉には鍵はかけていないが、玄関から建物に入る扉に鍵がかけてある。朝礼時や日中職員が1名で対応する時間帯には、近くに国道があることもあり入居者の安全確保のため施錠している。	○	玄関に鍵をかける事の弊害について話し合い、入居者の安全に配慮しつつ日中は鍵をかけない工夫を期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルが作成され、緊急連絡網が整備されている。年2回の消火・避難訓練の内1回は、消防署の指導を受けている。夜間の避難訓練や近隣との協力体制が不十分である。	○	昼夜を通じて様々な災害発生時間を想定し、夜間の避難訓練を実施すると共に、地域の人々の協力が得られるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の作成した献立表を基本に調理し、食事チェック表で一日の食事量を把握している。水分摂取の少ない入居者には、ゼリーやスポーツドリンクを用意し最低1000cc摂取できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂には観葉植物が置かれ、4脚のテーブルと椅子が各々離れて配置され、気のあった入居者同士が食事やおしゃべりを楽しめるよう配慮されている。玄関先にベンチが配置され天気の良い日は外気浴を行っている。また、廊下や浴室・トイレ等はエアコンが完備し換気や温度調整がされ・清潔に保持されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇が持ち込まれ、家族の写真が飾られ、畳やカーペットが敷かれる等、家族や本人の要望に応じ安心して過ごせるよう配慮されている。		